

要旨

本論文は、SF映画に対する女性の捉え方の社会的変容について明らかにしていくものであり、「スター・ウォーズ」を例に挙げる。公開時の1977年から1983年頃までは男性や子ども向けのSF映画として公開された。しかし、2015年頃から男性ファンが主だったものに女性ファンが目立つようになり、スター・ウォーズの女性ファンのことを「スター・ウォーズ女子」と呼ぶ程、女性からも支持されている（『アミューズメント産業』2017.11号：29）。戦いを主とした映画の需要が高まっていった様子を、社会をとりまく環境からどのように影響されてきたのかを分析していく。

男性向けの印象が強い「スター・ウォーズ」に関して、各年代の女性はどのように感じていたのか、何故映画が公開されてから時間が経ってもファンで居続けられるのかを検討する。

そのなかで、スター・ウォーズファンの女性がどうしてファンで居続けるのかについて注目していきたい。これまでの研究では、SF映画の科学的な視点やAI技術からの考察等といった宇宙を題材としたものが多かった。ジェンダー視点の研究では、スター・ウォーズに登場するヒロインの女性像に関する研究はある。しかし今回は、女性ファンとSF映画との関係性を明らかにしたい。

まず第1章では、国立国会図書館に所蔵されている雑誌のアーカイブ記事の内容を基に、スター・ウォーズの位置づけや視聴者のターゲット層について記載する。映画を時代ごとに分類して、印象的な特徴を明らかにしていく。

第2章では、2010年代以降におけるスター・ウォーズのコラボグッズや数々のイベントの社会的に与えた影響とは何か、女性とスター・ウォーズとの距離感を雑誌のアーカイブ記事から中心に考える。

第3章では、3人の「スター・ウォーズ女子」にインタビューをした内容から、女性がSF映画と向き合うようになった理由や、今抱いているスター・ウォーズの捉え方を考察する。インタビューは第1章、第2章の内容を踏まえながら明らかにしていく。

最後に、第4章では主に第3章でまとめたインタビューの内容をまとめながら分析を行う。SF映画に対する女性の思考を分析する目的で行われた。女性がスター・ウォーズを好きになるにはどのような要素が必要なのか。また、各年代層のファンの意見を比較検討する。

結論として、映画の公開期間外でもスター・ウォーズの女性ファンは存在する。そして、新しく映画が公開されると親から子ども、友人から友人へスター・ウォーズの魅力が受け継がれていくことが明らかになった。映画としては完結するまでに長い時間を費やす分、それぞれの世代にリアルタイムのエピソードがある。そして、世代を超えて年齢層関係なくスター・ウォーズで会話ができるコンテンツであった。

この研究で貢献する点にあたって、当初子ども向けの作品として公開された作品が、今日では多くの人に親しまれている。SF映画といえば、女性にとっては触れづらい分野であ

るかもしれない。ただ、一部の女性の心には需要があることが分かった。学生から主婦まで、世代の層は広い。本研究は、女性の意見から比較検討を行ったが、スター・ウォーズ関連のイベントに足を運んでいるファンや、映画以外で行動を起こすファンに話を聞くと、さらに良い研究になっただろう。

「スター・ウォーズ」はフィクション作品ではあるが、戦争がテーマであることには変わらない。今日でも戦争をしている国もあれば、戦争を知らないで生きている人もいる。その中で、人種や性別、年齢関係なくエンターテイメントとして作品を楽しむことは当たり前になりつつも、実は有り難いことなのではないか。今回、協力してくれたインタビューの方の年齢や住んでいる地域は違っても共通の話題でお話することができた。次の世代にもスター・ウォーズの素晴らしさを伝えていきたい。